

「いのち」をもっているということは  
「使える時間」があるということ  
その時間を、自分のためだけではなく  
人のためにも使ってほしい

日野原重明さん(お医者さん)

今年の7月に105歳で亡くなった日野原重明さん。100歳を超えても患者さんを見続けた方でした。それだけでなく、全国の子ども達に、講演会の中で、「いのち」の大切さをお話ししてくださいました。

「いのち」ってどこにあるの?」「いのち」って何?」と子ども達に問いかける日野原さん。皆さんならどう答えますか?

「いのち=使える時間がある」ということ。それを人のためにも使ってほしい……。患者さんや、子ども達、そして家族のことを大切に105歳の人生を生き抜いた日野原さんは、私たちに、「みんながしあわせになる方法」を教えてくださいました。